

筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会（第1回） 議 事 要 旨

■日 時：令和5年10月13日（金） 14:00～16:10

■場 所：久留米リサーチ・パーク

■出席者：（委 員）古賀委員長、乾委員、小野委員、嶋田委員、中島委員、西野委員、真鍋委員、
吉田委員、（Web 参加）広渡委員
（事務局）6 名
（オブザーバー）朝倉市

■配布資料：

- ・議事次第
- ・資料－1 筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会出席者名簿
- ・資料－2 筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会設立趣意書
- ・資料－3 筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会規約（案）
- ・資料－4 筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員名簿
- ・資料－5 委員会の公開について
- ・資料－6 筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会（第1回）説明資料

■審議内容等：

1) 設立の趣意、規約について

資料－2（設立趣意書）及び資料－3（委員会規約）について事務局から説明し、委員の承諾を得た。

2) 委員長の選出

委員の互選により、古賀委員が委員長に選出された。

3) 委員会の公開方法

委員会の公開方法について、委員会規約第5条に定めるとおりとする旨を事務局から説明し、委員の承諾を得た。

4) 筑後川水系ダム群連携事業環境影響評価について

事務局から環境影響評価項目、調査計画、予測方法及び評価方法について事務局から説明し、委員の了承を得た。主な指摘事項は下記の通り。

- ・建設発生土受入地についても影響検討を行う必要がある。
- ・取水地点から下流域での筑後川本川に対する環境影響を確認した方が良い。
- ・水質シミュレーションの予測評価において、手法の妥当性については、小石原川ダム完成後の実績データを用いて検証した方が良い。

- ・現状の水質が環境基準値を超過している地点については、要因をある程度整理しておく必要がある。
- ・水温の変化によって生態系が変わってしまう可能性があるため、放流先の佐田川において、河川の水温変化を把握した方がよい。
- ・事業内容の説明として、導水による筑後川本川及び佐田川の河川流量の変化についてわかりやすく整理する必要がある。
- ・予測される影響については、理由についてもわかりやすく説明すること。
- ・トンネル掘削方法によるが、地下水位や河川流量が低下することが懸念されるため、黒川および疣目川と導水トンネルが交差する付近では河川流量を観測することが望ましい。
- ・重要種だけでなく、外来種の影響についても検討することが重要であり、取水口周辺で確認されている外来種を整理し、どのような種類が佐田川に侵入し、生態系がどう変化するのか検討するとよい。
- ・外来種の影響について、まずは放流先の佐田川上流に着目して生態系がどう変化するのかモニタリングが重要である。
- ・筑後川上流の大分県側では外来珪藻のミズワタクチビルケイソウが分布しており、導水によって佐田川等の支川に侵入すると河床を覆って水生昆虫等に影響を及ぼす可能性がある。また、外来植物のオオフサモやブラジルチドメグサは、切れ藻等の状態で支川に侵入する可能性があるため、分布拡大リスクを予測した方がよい。
- ・同一水系のため、遺伝子的攪乱は少なく、問題ないものと考えられる。

5) その他

事業予定地である朝倉市がオブザーバーとして出席し、事業及び環境保全に関する要望を述べた。

以 上